

解	新聞、テレビ、ラジオ
禁	平成 16 年 2 月 3 日(火)

やんばるの豊かな河川・海岸を取り戻そう！

～ 「(仮称)やんばる河川・海岸自然再生協議会」設立準備会を開催します～

記者発表資料

リュウキュウアユを蘇生させる会(会長 琉球大学名誉教授 池原貞雄)、沖縄総合事務局開発建設部、沖縄県土木建築部の三者は、やんばるの河川及び海岸の自然再生を推進するため、自然再生推進法に基づく自然再生協議会設立のための準備会を開催しますのでお知らせ致します。

リュウキュウアユを蘇生させる会は、“リュウキュウアユを象徴的にとらえ、アユを始め他の河川生物及び生息環境の保全や創生活動等を行う”ことを目的に平成3年から活動を行っております。これまでに、源河川にアユを呼び戻す会、北部ダム事務所及び名護市などと協力してリュウキュウアユのダム湖(福地ダム、安波ダム、辺野喜ダム)での陸封化に成功しております。しかしながら、同様な復元活動を行っている源河川、奥川などでは、海と川を行き来する本来の姿での復活はまだ果たせずしております。現状の河川・海岸の姿が昔と比べ大きく変化したことが要因の一つと思われます。このようなことから当会では、やんばるの河川・海岸の健全な生態系の回復を図るためには、現在の河川・海岸を可能な限り本来の原風景に近づける必要があると考えており、そのために国、県と協働で(仮称)やんばる河川・海岸自然再生協議会を設立し、参加を広く呼びかけることとしております。

記

開催日：平成 16 年 2 月 4 日(水) 14:00～16:00

場 所：琉球大学理学部 6 階 理複 6 1 5 大会議室

平成 16 年 2 月 3 日

問合わせ先	
リュウキュウアユを蘇生させる会	琉球大学理学部海洋自然科学科助教授 立原 一憲 電話 (098)895-8556
沖縄総合事務局開発建設部河川課	課長 三輪 賢志 電話(098-862-1457) 水資源開発調整官 与那覇 忍 電話(同上)

参考資料

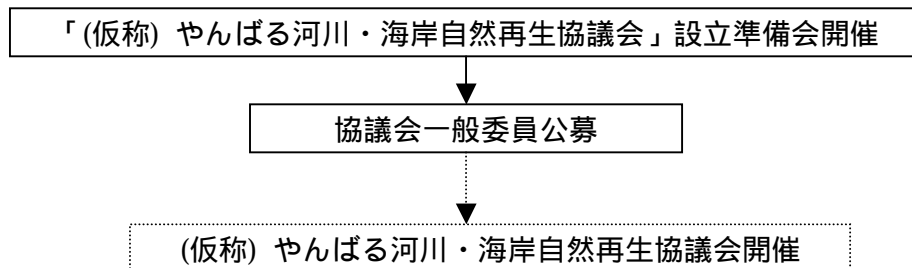
(仮称)やんばる河川・海岸自然再生協議会」設立準備会呼びかけ人名簿

	組織・名前
呼びかけ人	琉球大学理学部教授、リュウキュウアユを蘇生させる会 諸喜田 茂充
	琉球大学理学部助教授、リュウキュウアユを蘇生させる会 立原 一憲
	沖縄総合事務局開発建設部河川課長 三輪 賢志
	沖縄総合事務局北部ダム事務所長 横森 源治
	沖縄総合事務局北部ダム統合管理事務所長 高良 保英
	沖縄県土木建築部河川課長 比嘉 和夫
オブザーバ	リュウキュウアユを蘇生させる会東京支部
	環境省沖縄奄美地区自然保護事務所

(仮称)やんばる自然再生協議会設立準備会(第1回)議事内容

- やんばるの河川・海岸の現状と課題について
- 協議会の組織構成（学識経験者、関係行政機関等）について
- 地域住民、市民団体等の公募について
- 協議会設置要綱（案）について
- 協議会の名称について
- 今後のスケジュールについて

協議会開催までの流れ



リュウキュウアユ復元活動の主な経緯

年	活動内容
1978年(S53)	この年の確認を最後に、沖縄島でリュウキュウアユ確認されず
1984年(S59)	淡水魚研究会が、リュウキュウアユの復元について提言
1986年(S61)	名護市源河区民を中心に「源河川にアユを呼び戻す会」発足
1990年(H2)	「リュウキュウアユフォーラム‘90」名瀬市で開催
1991年(H3)	「リュウキュウアユフォーラムinnago」名護市で開催
	学識者を中心に「リュウキュウアユを蘇生させる会」発足
	リュウキュウアユを蘇生させる会、源河川にアユを呼び戻す会、北部ダム事務所、名護市の4者(4者会議)の協働によりリュウキュウアユ種苗センター完成
	種苗センターで人工産卵、受精を試みるが発眼、ふ化に至らず。
1992年(H4)	種苗センターで初の人工授精、ふ化に成功。
	福地ダム流入河川と源河川に稚魚放流
1993年(H5)	福地ダム流入河川、源河川で前年度放流個体から生まれた稚魚の遡上を確認
1994年(H6)	「第3回リュウキュウアユフォーラム」名護市で開催
	安波ダム流入河川に稚魚放流、翌年放流個体から生まれた稚魚の遡上確認
現在	リュウキュウアユ種苗センターにおいて、人工種苗生産技術確立
	福地、安波、辺野喜、普久川の4ダム流入河川及びダム湖でリュウキュウアユが定着。河川では源河川(H4~)・奥川(H8~)・与那川(H7~9)・比地川(H6~)の4河川で放流活動を行っているが、未だ定着までには至らず
	H7に「リュウキュウアユ復元のための拡大会議」(4者会議のメンバーを中心に行政、民間、NPOで構成)を発足し、それぞれの分野で役割分担し活動(放流式、学習会、追跡調査、河川環境整備等)を継続



リュウキュウアユの稚魚



成熟したリュウキュウアユ(カンヌタ川)

アユの陸封化とは

アユは、秋に河川下流域の瀬で産卵します。1～2週間でふ化した仔魚は、海へ流れ下り、沿岸で動物プランクトンを捕食して育ち、冬を過ごします。春に稚魚にまで育ったアユは、河川を遡上して中流域に定住し、岩に付いた藻類(も)を食べて成長します。そして、秋になると成熟して下流域に下り、産卵して一生を終えます。このような川と海を行き来するライフサイクルを持つ魚は、両側回遊魚と呼ばれ、ヨシノボリ、ゴクラクハゼなどがこの仲間です。

一方、本来両側回遊魚であるものが、何らかの原因で、一生を湖沼と湖沼に流入する河川との間を行き来して送るようになり、海と縁が切れてしまった状態を「陸封化」と言います。

陸封型アユとしては、琵琶湖産のアユが最も有名です。